

四半期報告書

(第40期第3四半期)

自 平成26年10月1日

至 平成26年12月31日

株式会社 電通国際情報サービス

目 次

	頁
表 紙	1
第一部 企業情報	2
第1 企業の概況	2
1 主要な経営指標等の推移	2
2 事業の内容	2
第2 事業の状況	3
1 事業等のリスク	3
2 経営上の重要な契約等	3
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3
第3 提出会社の状況	7
1 株式等の状況	7
(1) 株式の総数等	7
(2) 新株予約権等の状況	7
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	7
(4) ライツプランの内容	7
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	7
(6) 大株主の状況	7
(7) 議決権の状況	8
2 役員の状況	8
第4 経理の状況	9
1 四半期連結財務諸表	10
2 その他	16
第二部 提出会社の保証会社等の情報	17

[四半期レビュー報告書]

[確認書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年2月6日
【四半期会計期間】	第40期第3四半期（自平成26年10月1日 至平成26年12月31日）
【会社名】	株式会社電通国際情報サービス
【英訳名】	Information Services International-Dentsu, Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 釜井 節生
【本店の所在の場所】	東京都港区港南二丁目17番1号
【電話番号】	03(6713)6160
【事務連絡者氏名】	経理部長 酒井 次郎
【最寄りの連絡場所】	東京都港区港南二丁目17番1号
【電話番号】	03(6713)6160
【事務連絡者氏名】	経理部長 酒井 次郎
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第39期 第3四半期 連結累計期間	第40期 第3四半期 連結累計期間	第39期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (百万円)	50,611	53,795	73,970
経常利益 (百万円)	1,583	1,266	4,766
四半期(当期)純利益 (百万円)	969	674	2,871
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	362	1,155	1,621
純資産額 (百万円)	37,605	39,228	38,864
総資産額 (百万円)	55,257	57,481	58,877
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	29.76	20.70	88.13
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	68.0	68.2	66.0

回次	第39期 第3四半期 連結会計期間	第40期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	1.18	4.29

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について重要な変更はありません。関係会社については、第1四半期連結会計期間に100%子会社「株式会社ISIDエンジニアリング」を設立したため、子会社の数は14社から15社へと変更になりました。「株式会社ISIDエンジニアリング」は、製造業の技術革新を支援するエンジニアリングサービスの提供を主たる事業としております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日～平成26年12月31日）におけるわが国経済は、政府主導の経済政策の効果等から緩やかな回復基調が継続したものの、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動や海外景気の下振れリスクなどの影響により一部に弱さが見られました。情報サービス産業におきましても、業績が好調に推移する製造業を中心にIT投資に増加傾向が見られておりますが、急激な円安の進行による輸入コストの増加や地政学リスクの高まりなどから企業の業況判断が慎重になる中、先行きの不透明感が継続しております。

かかる状況の下、当社グループは、平成29年3月期を最終年度とする中期経営計画「ISID Open Innovation 2016『価値協創』～Progress to the Future～」を当連結会計年度より開始しました。あらゆるパートナーとのコラボレーションを通じて新しい価値を創出し、お客様や社会の課題解決に貢献することを志す「価値協創」の理念を前中期経営計画（平成23年4月～平成26年3月）から継続しつつ、「競争優位性の追求」「新たなビジネス領域の開拓」「人材力の強化」の3つの基本方針のもと、より一層の差別化と業績の拡大に取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間の売上高は53,795百万円（前年同期比106.3%）となりました。当社グループが展開する3つの事業セグメントのうち、コミュニケーションITは前期に大型案件が終了したことに伴い減収となったものの、金融ソリューションならびにエンタープライズソリューションの拡大が増収を牽引しました。

利益面では、円安によるソフトウェア仕入原価の増加ならびにソフトウェア製品の開発原価増大等により売上総利益率が低下し、売上総利益は前年同期比減益の14,428百万円（前年同期比95.4%）となりました。この結果、販売費及び一般管理費は減価償却費および研究開発費等の減少により13,355百万円（前年同期比96.1%）となったものの、営業利益は1,073百万円（前年同期比88.0%）、経常利益は1,266百万円（前年同期比80.0%）、四半期純利益は674百万円（前年同期比69.6%）とそれぞれ減益となりました。

事業セグメント別の売上高および営業の状況は以下のとおりです。

■事業セグメント別売上高

事業セグメント	前第3四半期連結累計期間 自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日		当第3四半期連結累計期間 自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日		前年同期比 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
金融ソリューション	15,786	31.2	17,281	32.1	109.5
エンタープライズソリューション	21,909	43.3	24,658	45.8	112.5
コミュニケーションIT	12,916	25.5	11,855	22.1	91.8
合計	50,611	100.0	53,795	100.0	106.3

(注) 「金融ソリューションセグメント」では、金融業界を対象とした各種金融サービスに関わるソリューションを提供します。「エンタープライズソリューションセグメント」では、基幹システムや経営管理分野を対象としたソリューションならびに製品開発・製造分野を対象としたソリューションを提供します。「コミュニケーションITセグメント」では電通グループとの協業による企業向け各種ソリューションを提供します。

■事業セグメント別営業の状況

金融ソリューション 17,281百万円 (前年同期比109.5%)

メガバンク向けに海外拠点システムや市場系システム等の開発案件が拡大したことに加え、新日銀ネット第二段階対応の決済管理ソリューション「Stream-R」のライセンス販売が拡大したことから、当セグメントの売上高は増収となりました。

エンタープライズソリューション 24,658百万円 (前年同期比112.5%)

製造業の製品開発分野を対象としたエンジニアリング系ソリューションは、革新的なものづくり手法MBD(モデルベース開発)を支援するソフトウェア製品「iQUAVIS」、およびコンサルティングサービスが主として自動車業界向けに拡大したことに加え、製品ライフサイクル管理(PLM)ソリューション「Teamcenter」を中心とした設計支援のソフトウェア商品が堅調に推移しました。

基幹システムや経営管理分野を対象としたビジネス系ソリューションも、人事管理ソリューション「POSITIVE」や基幹システム構築の大型案件を中心に拡大したことから、当セグメントの売上高は増収となりました。

コミュニケーションIT 11,855百万円 (前年同期比91.8%)

電通グループとの協業によるビジネスは、マーケティング・プラットフォームを活用したシステム構築サービスの引き合いが公共向けを中心に堅調に推移しているものの、電通向け大型基幹システム構築案件が前期にピークアウトしたことから、当セグメントの売上高は減収となりました。

サービス品目別売上高および営業の状況は以下のとおりです。

■サービス品目別売上高

サービス品目	前第3四半期連結累計期間 自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日		当第3四半期連結累計期間 自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日		前年同期比 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
コンサルティングサービス	1,798	3.5	2,242	4.2	124.7
受託システム開発	17,155	33.9	15,935	29.6	92.9
ソフトウェア製品	7,137	14.1	9,298	17.3	130.3
ソフトウェア商品	15,419	30.5	15,349	28.5	99.5
アウトソーシング・運用保守サービス	4,703	9.3	5,287	9.8	112.4
情報機器販売・その他	4,398	8.7	5,681	10.6	129.2
合計	50,611	100.0	53,795	100.0	106.3

(注)「コンサルティングサービス」は、業務およびITのコンサルティングサービスです。「受託システム開発」は、顧客の個別仕様に基づくシステムの構築および保守です。「ソフトウェア製品」は、自社開発ソフトウェアの販売および保守、アドオン開発・導入技術支援サービスです。「ソフトウェア商品」は、仕入ソフトウェアの販売および保守、アドオン開発・導入技術支援サービスです。「アウトソーシング・運用保守サービス」は、顧客システムの運用・保守・サポート、ならびに業務の受託サービスです。「情報機器販売・その他」は、ハードウェアならびにデータベースやミドルウェア等のソフトウェアの販売および保守です。

■サービス品目別営業の状況

コンサルティングサービス 2,242百万円 (前年同期比124.7%)

革新的なもののづくり手法MBDに関するコンサルティングサービスが製造業向けに拡大したことに加え、経営の高度化を支援するビジネス系のコンサルティングサービスも堅調に推移したことから、当サービスの売上高は増収となりました。

受託システム開発 15,935百万円 (前年同期比92.9%)

メガバンク向けならびに製造業向けのシステム構築案件が拡大しました。しかしながら、電通向けの大型案件が前期にピークアウトしたことに伴う反動減により、当サービスの売上高は減収となりました。

ソフトウェア製品 9,298百万円 (前年同期比130.3%)

人事管理ソリューション「POSITIVE」、革新的なもののづくり手法MBDを支援する「iQUAVIS」、連結会計ソリューション「STRAVIS」、新日銀ネット第二段階対応の決済管理ソリューション「Stream-R」およびマーケティング・プラットフォーム「iPLAss」等の拡大により、当サービスの売上高は増収となりました。

ソフトウェア商品 15,349百万円 (前年同期比99.5%)

「Force.com」を活用したシステム構築案件は減少したものの、製品ライフサイクル管理 (PLM) ソリューション「Teamcenter」を中心とした製造業の設計開発分野向けが堅調に推移したことから、当サービスの売上高は前年同期並みとなりました。

アウトソーシング・運用保守サービス 5,287百万円 (前年同期比112.4%)

電通グループ向けが堅調に推移したことから、当サービスの売上高は増収となりました。

情報機器販売・その他 5,681百万円 (前年同期比129.2%)

全てのセグメントにおいて、主要顧客向けを中心に拡大したことから、当サービスの売上高は増収となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発活動の金額は628百万円です。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

① 資産

当第3四半期連結会計期間末における資産の部は、主として売上債権の減少やたな卸資産、現金及び現金同等物の増加により流動資産が124百万円減少したことに加えて、無形固定資産および有形固定資産の減少等により固定資産が1,273百万円減少した結果、前連結会計年度末の58,877百万円から1,396百万円減少し、57,481百万円となりました。

② 負債

当第3四半期連結会計期間末における負債の部は、主として未払法人税等、未払費用および仕入債務の減少や前受金の増加により流動負債が1,021百万円減少したことに加えて、リース債務および繰延税金負債の減少等により固定負債が739百万円減少した結果、前連結会計年度末の20,013百万円から1,761百万円減少し、18,252百万円となりました。

③ 純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産の部は、四半期純利益を計上したものの剰余金の配当により利益剰余金が減少した一方、為替・時価変動等によりその他の包括利益累計額が増加した結果、前連結会計年度末の38,864百万円から364百万円増加し、39,228百万円となりました。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	98,000,000
計	98,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年2月6日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	32,591,240	32,591,240	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	32,591,240	32,591,240	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日	—	32,591,240	—	8,180	—	15,285

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成26年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 8,300	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 32,545,000	325,450	—
単元未満株式	普通株式 37,940	—	—
発行済株式総数	32,591,240	—	—
総株主の議決権	—	325,450	—

（注） 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が70株含まれております。

② 【自己株式等】

平成26年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
（自己保有株式） 株式会社電通国際 情報サービス	東京都港区港南 2-17-1	8,300	—	8,300	0.03
計	—	8,300	—	8,300	0.03

2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 役職の異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役 常務執行役員	営業統括補佐 コミュニケーション ITセグメント長 オープンイノベーション 研究所担当 オープンイノベーション 研究所長	取締役 常務執行役員	営業統括補佐 コミュニケーション ITセグメント長 オープンイノベーション 研究所担当	堀 沢 紳	平成26年12月26日

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,476	3,957
受取手形及び売掛金	20,338	※1 14,556
商品及び製品	23	197
仕掛品	541	2,396
原材料及び貯蔵品	20	26
前渡金	4,574	4,604
預け金	9,528	12,534
その他	1,787	1,891
貸倒引当金	△2	—
流動資産合計	40,287	40,163
固定資産		
有形固定資産	5,210	4,907
無形固定資産		
のれん	38	19
その他	5,419	4,608
無形固定資産合計	5,457	4,627
投資その他の資産		
投資その他の資産	7,922	7,783
貸倒引当金	△1	△1
投資その他の資産合計	7,921	7,782
固定資産合計	18,590	17,317
資産合計	58,877	57,481
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,766	5,004
未払法人税等	1,197	142
前受金	4,834	6,299
受注損失引当金	165	44
その他	5,423	4,874
流動負債合計	17,387	16,366
固定負債		
役員退職慰労引当金	28	28
資産除去債務	789	803
その他	1,807	1,053
固定負債合計	2,625	1,886
負債合計	20,013	18,252

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,180	8,180
資本剰余金	15,285	15,285
利益剰余金	14,419	14,312
自己株式	△28	△28
株主資本合計	37,857	37,750
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	721	499
繰延ヘッジ損益	22	228
為替換算調整勘定	236	728
その他の包括利益累計額合計	980	1,456
少数株主持分	25	22
純資産合計	38,864	39,228
負債純資産合計	58,877	57,481

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	50,611	53,795
売上原価	35,493	39,367
売上総利益	15,118	14,428
販売費及び一般管理費	13,899	13,355
営業利益	1,219	1,073
営業外収益		
受取利息	29	31
受取配当金	59	43
持分法による投資利益	100	41
為替差益	85	—
付加価値税還付金	59	47
雑収入	68	61
営業外収益合計	402	225
営業外費用		
支払利息	28	21
為替差損	—	6
雑損失	10	4
営業外費用合計	39	32
経常利益	1,583	1,266
税金等調整前四半期純利益	1,583	1,266
法人税、住民税及び事業税	398	463
法人税等調整額	209	123
法人税等合計	608	586
少数株主損益調整前四半期純利益	974	679
少数株主利益	4	5
四半期純利益	969	674

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	974	679
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△955	△222
繰延ヘッジ損益	△12	206
為替換算調整勘定	355	491
その他の包括利益合計	△612	475
四半期包括利益	362	1,155
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	357	1,150
少数株主に係る四半期包括利益	4	5

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

株式会社ISIDエンジニアリングは、第1四半期連結会計期間において新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
受取手形	一百万円	1百万円

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

主として連結財務諸表提出会社の顧客に導入される情報システム及びそのソフトウェアの稼働時期は、期首及び第3四半期会計期間期首からとなる場合が多いため、多くの顧客の決算期(年度末)である3月及び第2四半期会計期間末である9月にシステム開発の完了又はソフトウェアの出荷・納入が集中します。そのため、当社グループの売上は3月及び9月に集中する傾向があり、当社グループの売上高は季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
減価償却費	2,505百万円	3,394百万円
のれんの償却額	19	19

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	325	10.00	平成25年3月31日	平成25年6月26日	利益剰余金
平成25年10月31日 取締役会	普通株式	325	10.00	平成25年9月30日	平成25年12月5日	利益剰余金

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月24日 定時株主総会	普通株式	390	12.00	平成26年3月31日	平成26年6月25日	利益剰余金
平成26年10月31日 取締役会	普通株式	390	12.00	平成26年9月30日	平成26年12月5日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			
	金融ソリューション	エンタープライズ ソリューション	コミュニケーション IT	合計
売上高				
外部顧客への売上高	15,786	21,909	12,916	50,611
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	15,786	21,909	12,916	50,611
セグメント利益又は損失(△)	1,285	△1,811	1,744	1,219

(注)セグメント利益又は損失(△)の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			
	金融ソリューション	エンタープライズ ソリューション	コミュニケーション IT	合計
売上高				
外部顧客への売上高	17,281	24,658	11,855	53,795
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	17,281	24,658	11,855	53,795
セグメント利益又は損失(△)	416	△669	1,325	1,073

(注)セグメント利益又は損失(△)の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成26年12月31日)
1 株当たり四半期純利益金額	29円76銭	20円70銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (百万円)	969	674
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額 (百万円)	969	674
普通株式の期中平均株式数 (千株)	32, 583	32, 582

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

平成26年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額 390百万円

(ロ) 1 株当たりの金額 12円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 . . . 平成26年12月 5 日

(注) 平成26年 9 月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年2月3日

株式会社電通国際情報サービス

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 広瀬 勉 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 瀬戸 卓 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 後藤 英俊 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社電通国際情報サービスの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社電通国際情報サービス及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。